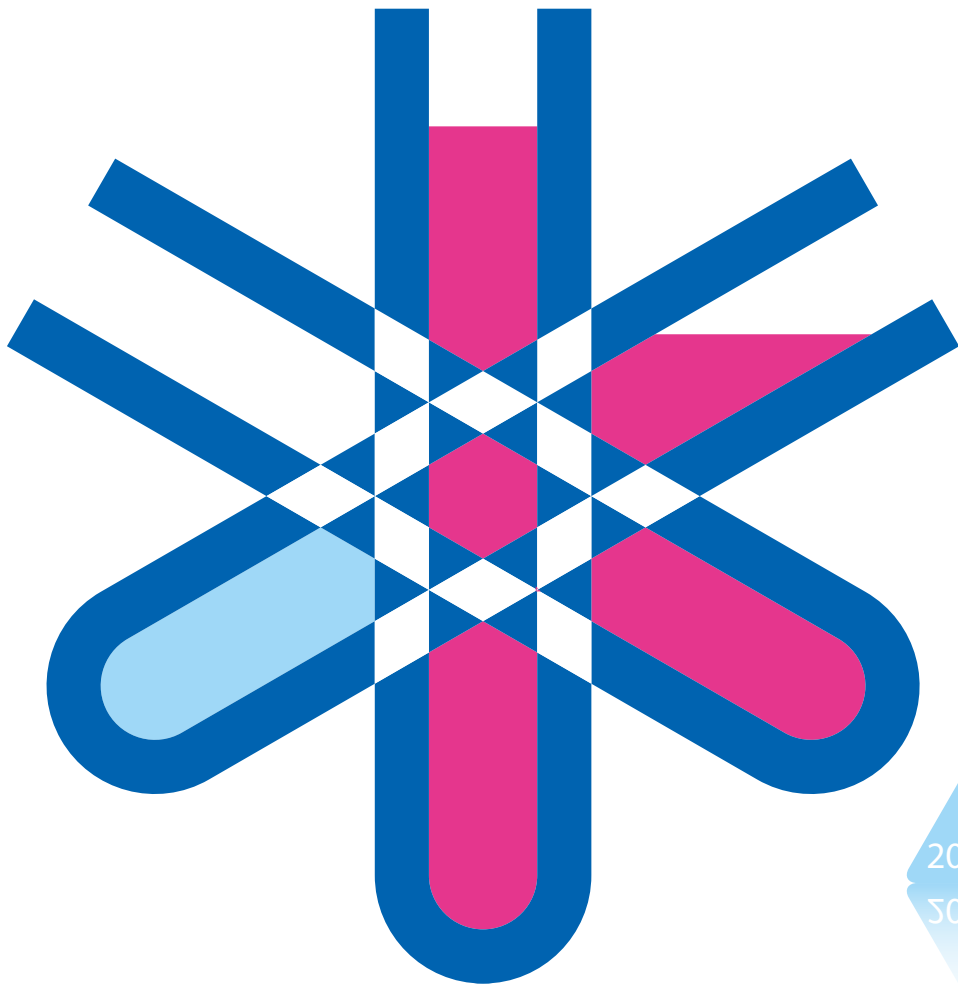


横查情報月報



横浜市衛生研究所

令和3年10月号 目次

【検査結果】

医動物・種類同定検査結果（令和3年7月～9月）	1
夏期食品収去検査結果（令和3年度）	5
遺伝子組換え食品の検査結果（令和3年度）	7

【情報提供】

衛生研究所WEBページ情報（令和3年9月）	9
-----------------------------	---

【感染症発生動向調査】

感染症発生動向調査報告*（令和3年9月）	11
----------------------------	----

* この記事では主に、医療機関向けの情報を提供しています。

感染症発生動向調査は感染症法に基づく国の事業です。本事業に関する詳細は、「感染症発生動向調査とは」（下記URL）をご参照ください。

<https://www.city.yokohama.lg.jp/kurashi/kenko-iryo/eiken/kansen-center/doko/systemgaiyo.html>




医動物・種類同定検査結果(令和3年7月～9月)

医動物担当では、人の健康を害し、人に不快感を与える昆虫、ダニ、寄生虫等の試験・調査・研究を行っています。

その中の一つとして、各区の福祉保健センター、各市場検査所、事業者などの依頼を受け、昆虫類を中心とした種類同定検査を行っています。昆虫類の種類を同定することによって、発生源、発生時期、人に対する害などが分かると、効果的な対策を立てることにつながります。

令和3年7月から9月の3か月間の種類同定検査報告件数は、昆虫類7件(トビムシ目1件、コウチュウ目3件、ハエ目1件、ハチ目2件)、その他の節足動物9件(クモ目9件)でした。

主な検査結果の詳細は以下のとおりです。

相談内容・発生状況等 (相談月)	写真 (状態、体色、大きさ)	同定結果	生態・その他
自宅のトイレ、洗面所及び浴室に小さな虫が多数みられる。 (7月)	 <p>成虫、淡黄色、約1.5mm</p>	ヒゲナガトビムシ属の一種 (トビムシ目)	トビムシ目の多くは土壌の表面、落ち葉中に生息し、落ち葉や腐植物、菌類などを食べるが、様々な湿った場所に見られ、生活圏は極めて広い。雑食性で、繁殖力が高く、好適条件下で大量発生することがあり、家庭内においても浴室や台所などに発生し、不快害虫となることがある。
自宅の押入れ、床の壁沿い、キッチン等に2種類の小型の虫が、大量に発生している。 (7月)	 <p>① 成虫、茶褐色、約1.2mm</p>  <p>② 成虫、褐色、約1.2mm</p>	① チビマルホソカタムシ (コウチュウ目) ② ホソツヤヒメマキムシ (コウチュウ目)	両種共に食菌性で、一般住宅や食品工場、倉庫などで発生し、問題となることがある。貯穀や穀粉を直接加害することはなく、そこに生えたカビを食する。

相談内容・発生状況等 〈相談月〉	写真 (状態、体色、大きさ)	同定結果	生態・その他
<p>新築の家の2階台所とリビングに小さな甲虫がみられる。 〈9月〉</p>		<p>カドコブホソヒラタムシ (コウチュウ目)</p>	<p>穀粉やカビの生えた貯穀類、畳やカーペットなどに発生することがある。</p>
<p>6月初旬から自宅東側壁面付近に小さなハエが多数飛んでいる。 〈6月〉</p>		<p>ワラジムシヤドリバエ科の一種 (ハエ目)</p>	<p>ワラジムシやダンゴムシなどの等脚目に内部寄生する。</p>
<p>自宅1階のリビングの照明のカバーの中に、黒い小さな虫が出てくる。 〈7月〉</p>		<p>アカアシフトコバチ (ハチ目)</p>	<p>ニクバエ科やクロバエ科の蛹に寄生する。</p>
<p>通販で購入した荷物の中に多数のアリがみられた。 〈9月〉</p>		<p>ルリアリ (ハチ目)</p>	<p>働きアリの体長は約2mm。体は青みを帯びた黒色。草地や林縁部の枯れ枝、朽木内、石の下などに営巣する。隙間に侵入する性質があり、通信設備の梱包に入り込む被害が報告されている</p>

相談内容・発生状況等 〈相談月〉	写真 (状態、体色、大きさ)	同定結果	生態・その他
<p>ゴケグモ属(セアカゴケグモ)と思われるクモを発見した。 〈7月1件、8月3件、9月1件〉</p>	 <p>雌成虫 約10~14mm</p>  <p>腹面(赤い砂時計型の斑紋)</p>	<p>セアカゴケグモ (クモ目)</p>	<p>体色は黒く、背面中央部に赤い縦長の斑紋、腹面にゴケグモ類特有(砂時計型)の赤い斑紋がみられる。</p>
<p>ゴケグモ属(ハイイロゴケグモ)と思われるクモを発見した。 〈7月〉</p>	 <p>雌成虫 約6~9mm</p>  <p>腹面(赤い砂時計型の斑紋)</p>	<p>ハイイロゴケグモ (クモ目)</p>	<p>体は褐色または灰色で個体差がある。腹部背面の正中線上に4個の斑紋がある。腹面にゴケグモ類特有(砂時計型)の赤い斑紋がみられる。全世界の熱帯、亜熱帯、温帯の一部に分布する。</p>

相談内容・ 発生状況等 〈相談月〉	写真 (状態、体色、大きさ)	同定結果	生態・その他
<p>ゴケグモ属と疑われ持ち込まれたクモ。 〈7月1件、8月2件〉</p>	 <p>雌成虫 約 7mm</p>  <p>雌成虫 約 5mm</p>	<p>ヒメグモ科の一種 (クモ目)</p>	<p>ヒメグモ科には、形態的にも生態的にもさまざまな種が含まれる。空間に造網する種が多い。なお、いずれのクモも腹面にゴケグモ類特有(砂時計型)の赤い斑紋はみられなかった。</p>

横浜市内で確認されたゴケグモ属については、以下のウェブページに掲載されています。

(※) 【参考】ゴケグモに注意

<https://www.city.yokohama.lg.jp/kurashi/sumai-kurashi/seikatsu/kokyo/gaichu/seakagokegumo.html>

(横浜市健康福祉局ウェブページ)

【 微生物検査研究課 医動物担当 】

夏期食品収去検査結果（令和3年度）

夏期食品等一斉点検は厚生労働省から出された「令和3年度食品、添加物等の夏期一斉取締りの実施について」の通知に基づき、夏期に多発する食中毒等食品による事故防止と食品衛生の確保を目的に全国一斉に実施されるものです。

本市においても令和3年6月1日から8月31日までを重点監視期間と定め、一斉点検を行いました。なお、新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、7月中旬以降は収去業務を縮小しています。

期間内に健康福祉局食品専門監視班と福祉保健センターが収去し、搬入された検体について、当所が行った検査の結果について報告します。

1 食品添加物検査

搬入された42検体（輸入品41検体、国産品1検体）の食品について、菓子類、野菜類・果実及びその加工品を重点的に保存料、着色料、甘味料など855項目の検査を実施しました（表1）。

食品衛生法及び食品表示法の違反は、ありませんでした。

表1 食品添加物検査 令和3年6月～8月

食品分類	検体数	違反検体数	項目数	検査項目				
				保存料	着色料	甘味料	酸化防止剤	漂白剤
穀類及びその加工品	1		4	3				1
野菜類・果実及びその加工品	10		189	30	136	14	7	2
菓子類	10		211	30	136	27	18	
清涼飲料水	4		119	40	68	10	1	
酒精飲料	3		73	16	51	3	3	
かん詰・びん詰食品	9		135	27	85	11	10	2
その他の食品	5		124	15	85	12	12	
合計	42	0	855	161	561	77	51	5

【 理化学検査研究課 食品添加物担当 】

2 細菌検査

細菌検査は、肉卵類及びその加工品2検体、穀類及びその加工品12検体、清涼飲料水11検体、計25検体、55項目(表2)のみとなりました。

また、規格基準のない穀類及びその加工品については、旧食品衛生法(令和3年6月1日廃止)の衛生規範^{*2}の項目について検査を実施しました。

検査の結果、規格基準^{*1}違反はありませんでした。

^{*1} 規格基準とは、食品及び添加物について食品衛生法第11条により基準、規格を定めたもののことです。

^{*2} 衛生規範とは、弁当、そうざい、漬物、洋生菓子及び生めん類について定められた衛生的な取り扱い等の指針のことです。食品衛生法の改正に伴い令和3年6月1日廃止されました。

横浜市では現在、食品営業者への衛生指導のための参考値として、衛生規範で示された数値を使用しています。

表2 細菌検査結果

令和3年6月～8月

食品分類	検査 検体数	検査 項目数	違反 検体数	違反理由
肉卵類及びその加工品 ^{*1}				
食肉製品(ハム・ソーセージ等)	2	6		
穀類及びその加工品 ^{*2}				
生めん・餃子の皮	8	24		
ゆでめん・むしめん	4	12		
清涼飲料水 ^{*1}				
清涼飲料水	10	10		
ミネラルウォーター	1	3		
合 計	25	55	0	

【 微生物検査研究課 細菌担当 】

遺伝子組換え食品の検査結果（令和3年度）

遺伝子組換え食品は、内閣府にある食品安全委員会で安全性に問題ないと判断され承認された後、国内での製造・輸入・販売等が可能になります。

横浜市では平成13年度から、安全性が未審査の遺伝子組換え食品が市内に流通していないか、また、適正な表示が行われているかを検査し確認しています。

今回は、令和3年4月と6月に、健康福祉局食品専門監視班が収去した「遺伝子組換え」の表示がない食品30検体の検査結果を報告します。

1 遺伝子組換えトウモロコシの定性検査

トウモロコシ加工品10検体について、安全性未審査の遺伝子組換えトウモロコシ(Bt10)^{*1}の定性検査を行いました。

検査の結果、いずれの検体からも検出されず、違反検体はありませんでした(表1)。

表1 遺伝子組換えトウモロコシ(Bt10)の検査結果

品名	原産国	検体数	検出数
コーンスナック菓子	日本(6)、ギリシャ(1)	7	0
コーンスープ(液体・粉末)	日本	2	0
タコシエル	オーストラリア	1	0
計		10	0

^{*1} 除草剤耐性と害虫抵抗性を持つ遺伝子を組み込んだトウモロコシの品種です。過去にアメリカで安全性審査が行われていない種子が誤って流通し、栽培された事例がありました。日本では未承認で、食品衛生法により販売等が認められていないため、検出されれば「食品衛生法違反」になります。

2 遺伝子組換えコメの定性検査

コメ加工品12検体について、安全性未審査の遺伝子組換えコメ3品種(63Bt、NNBt、CpTI)^{*2}の定性検査を行いました。

検査の結果、いずれの検体からも検出されず、違反検体はありませんでした(表2)。

表2 遺伝子組換えコメ(63Bt、NNBt、CpTI)の検査結果

品名	原産国	検体数	検出数
穀類加工品 (ビーフン、ライスペーパー)	タイ(1)、ベトナム(1)	2	0
米粉、餅	日本	6	0
米菓	日本	4	0
計		12	0

^{*2} いずれも害虫抵抗性を持つ遺伝子を組み込んだコメの品種です。日本では未承認で、食品衛生法により販売等が認められていないため、検出されれば「食品衛生法違反」になります。

3 遺伝子組換えダイズの定量検査

ダイズ穀粒8検体について、安全性審査済みの遺伝子組換えダイズ3品種(RRS、LLS、RRS2)^{*3}の定量検査を行いました。

定量検査の結果、いずれの検体も混入率は5%以下^{*4}であり、違反検体はありませんでした(表3)。

表3 遺伝子組換えダイズ(RRS、LLS、RRS2)の検査結果

品名	原産国	検体数	混入率5%を超える検体
ダイズ穀粒	日本(5)、カナダ(2)、中国(1)	8	0
計		8	0

^{*3} いずれも除草剤耐性を持つ遺伝子を組み込んだダイズの品種です。日本では、それぞれ平成13年(RRS)、平成14年(LLS)、平成19年(RRS2)に安全性審査を経て承認されています。

^{*4} 分別生産流通管理が適切に行われた場合でも、遺伝子組換え農作物の一定の混入は避けられないことから、ダイズでは5%以下の意図せざる混入が認められています。分別生産流通管理とは、遺伝子組換え農作物と非遺伝子組換え農作物を生産・流通・加工の各段階で相互に混入が起らないよう管理し、そのことが書類等により証明されていることをいいます。分別生産流通管理が行われた遺伝子組換えダイズを原材料とした場合は「遺伝子組換え」等の表示、分別生産流通管理が行われていない場合は「遺伝子組換え不分別」等の表示が必要です(義務表示)。

【 理化学検査研究課 食品添加物担当 】

衛生研究所WEBページ情報（令和3年9月）

横浜市衛生研究所ホームページ（衛生研究所WEBページ）は平成10年3月に開設され、感染症情報、保健情報、食品衛生情報、生活環境衛生情報、薬事情報を提供しています。

今回は、当WEBページにおける令和3年9月のアクセス件数、アクセス順位、電子メールによる問い合わせ、追加・更新記事について報告します。

なお、アクセス件数は市民局広報課から提供されたデータを基に集計しました。また、令和2年2月の集計より、新Webアクセス解析システム「Matomo」による集計となります。

1 利用状況

(1) アクセス件数

令和3年9月の総アクセス数は、205,981件でした。前月に比べ3.1%減少しました。主な内訳は、横浜市感染症情報センター*74.0%、保健情報15.0%、検査情報月報3.2%、生活環境衛生3.1%、食品衛生1.7%、薬事1.7%でした。

* 横浜市では、衛生研究所感染症・疫学情報課内に横浜市感染症情報センターを設置しており、横浜市内における患者情報及び病原体情報を収集・分析し、これらを速やかに提供・公開しています。

(2) アクセス順位

9月のアクセス順位（表1）を見ると、感染症に関する項目が、大半を占めています。

1位は、「ぎょう虫（蟯虫）症について」、2位は、「トキソプラズマ症について」、3位は、「水痘（水疱瘡）・帯状疱疹について」でした。7位には、「手足口病について」が入っています。

表1 令和3年9月 アクセス順位

順位	タイトル	件数
1	ぎょう虫（蟯虫）症について	11,938
2	トキソプラズマ症について	8,973
3	水痘（水疱瘡）・帯状疱疹について	8,333
4	EBウイルスと伝染性単核症について	7,954
5	B群レンサ球菌（GBS）感染症について	7,225
6	大麻（マリファナ）について	7,168
7	手足口病について	4,647
8	死亡率・致死率（致命率）・死亡割合について	4,619
9	クロストリジウム・ディフィシル感染症について	4,328
10	パラインフルエンザウイルスについて	4,283

データ提供：市民局広報課

「ぎょう虫（蟯虫）症について」に関連する情報

<https://www.city.yokohama.lg.jp/kurashi/kenko-iryo/eiken/kansen-center/shikkan/ka/gyou1.html>

「トキソプラズマ症について」に関連する情報

<https://www.city.yokohama.lg.jp/kurashi/kenko-iryo/eiken/kansen-center/shikkan/ta/toxoplasma1.html>

「水痘（水疱瘡）・帯状疱疹について」に関連する情報

<https://www.city.yokohama.lg.jp/kurashi/kenko-iryo/eiken/kansen-center/shikkan/sa/chicken1.html>

(3) 電子メールによる問い合わせ

令和3年9月の問い合わせは、8件でした(表2)。

表2 令和3年9月 電子メールによる問い合わせ

内容	件数
予防接種について	1
感染症情報センターのURLのメールによる配信について	1
害虫について	1
帯状疱疹ワクチンについて	1
茶毒蛾について	1
ウェブページ掲載記事の内容について	1
ハトのフン害について	1
GBS(B群溶連菌)血清抗体価の測定について	1

2 追加・更新記事

令和3年9月に追加・更新した主な記事は、8件でした(表3)。

表3 令和3年9月 追加・更新記事

掲載月日	内容	備考
9月 3日	全国熱中症患者救急搬送状況(2021年)	更新
9月 7日	熱中症情報(2021年9月6日)	掲載
	横浜市における蚊媒介感染症のウイルス検査結果(速報版第8回)	更新
9月13日	熱中症情報(2021年9月13日)	掲載
9月15日	全国熱中症患者救急搬送状況(2021年)	更新
9月21日	横浜市における蚊媒介感染症のウイルス検査結果(速報版第9回)	更新
9月22日	熱中症情報(2021年9月21日)	掲載
9月28日	熱中症情報(2021年9月27日)	掲載

【 感染症・疫学情報課 】

横浜市感染症発生動向調査報告（令和3年9月）

《今月のトピックス》

- 新型コロナウイルス感染症の報告数が第34週をピークに減少しています。
- 腸管出血性大腸菌感染症の報告数が多い状態が続いています。
- 梅毒の報告が続いています。

◇ 全数把握の対象

〈9月期に報告された全数把握疾患〉

腸管出血性大腸菌感染症	16件	急性脳炎	1件
E型肝炎	1件	クロイツフェルト・ヤコブ病	1件
レジオネラ症	4件	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	3件
アメーバ赤痢	3件	侵襲性肺炎球菌感染症	5件
ウイルス性肝炎	1件	水痘(入院例に限る)	1件
カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	7件	梅毒	15件

- 1 腸管出血性大腸菌感染症: O157が11件(うち1件が無症状病原体保有者)、O26が2件、O103が1件(無症状病原体保有者)、O不明が2件(すべて無症状病原体保有者)の報告がありました。
- 2 E型肝炎: 経口感染と推定される報告が1件ありました。
- 3 レジオネラ症: 肺炎型3件、ポンティアック熱型1件の報告がありました。いずれも感染経路等不明です。
- 4 アメーバ赤痢: 腸管アメーバ症3件(感染経路等不明2件、経口感染1件)の報告がありました。
- 5 ウイルス性肝炎: B型の報告が1件ありました。異性間性的接触による感染が推定されています。
- 6 カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症: 7件の報告がありました。いずれも感染経路等不明です。
- 7 急性脳炎: VZVによると推定される90歳代の報告が1件ありました。
- 8 クロイツフェルト・ヤコブ病: 古典型CJD1件の報告がありました。
- 9 劇症型溶血性レンサ球菌感染症: A群の報告が1件、G群の報告が2件ありました。
- 10 侵襲性肺炎球菌感染症: 20歳代1件(ワクチン接種歴無)、40歳代1件(ワクチン接種歴不明)、70歳代1件(ワクチン接種歴不明)、80歳代2件(いずれもワクチン接種歴不明)の報告がありました。
- 11 水痘(入院例に限る): 90歳代の検査診断例の報告が1件(ワクチン接種歴不明)ありました。
- 12 梅毒: 早期顕症梅毒Ⅰ期9件、早期顕症梅毒Ⅱ期5件、無症状病原体保有者1件の報告がありました。男性11件、女性4件で、12件は性的接触(異性間11件、詳細不明1件)による感染が推定されています。

◇ 新型コロナウイルス感染症(報道発表ベース)

第34週～第39週に横浜市から報道発表のありました症例は16,503件でした。

◆ 横浜市内の陽性患者の発生状況データ・相談件数

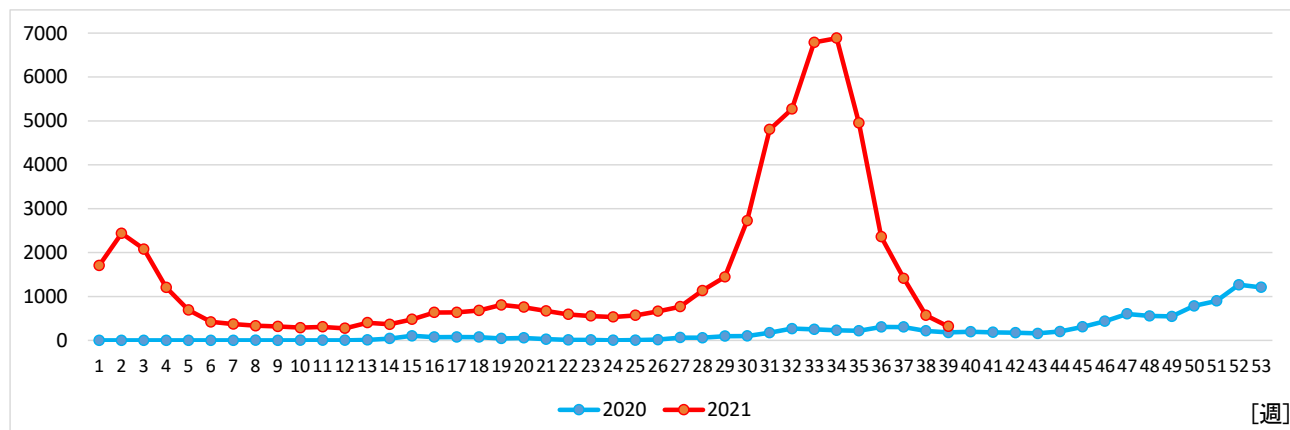
<https://www.city.yokohama.lg.jp/kurashi/kenko-iryō/yobosesshu/kansensho/coronavirus/corona-data.html>

◆ 変異株の検出状況：神奈川県 新型コロナウイルス感染症による患者確認について(10月5日版)

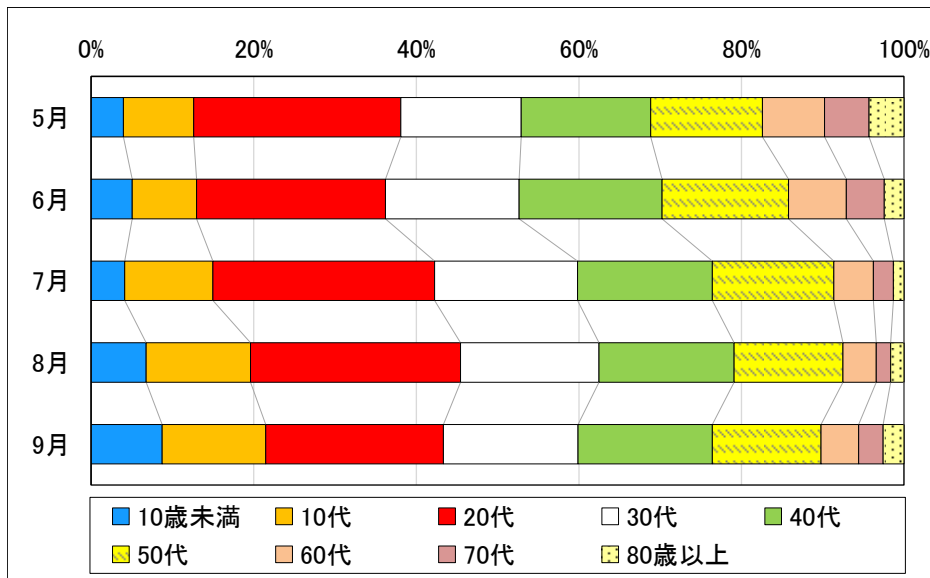
<https://www.pref.kanagawa.jp/docs/ga4/prs/r1880316.html>

1 報告数の推移

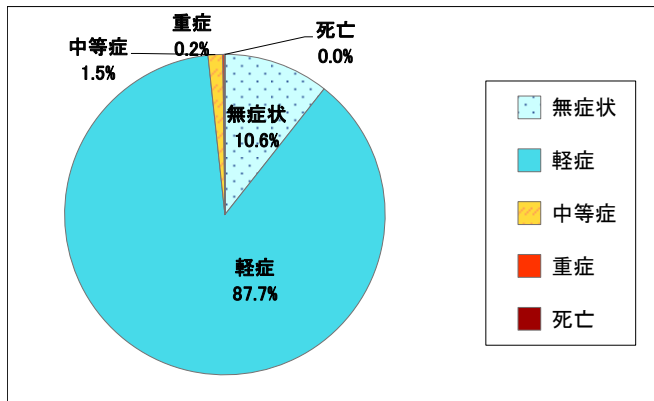
[人]



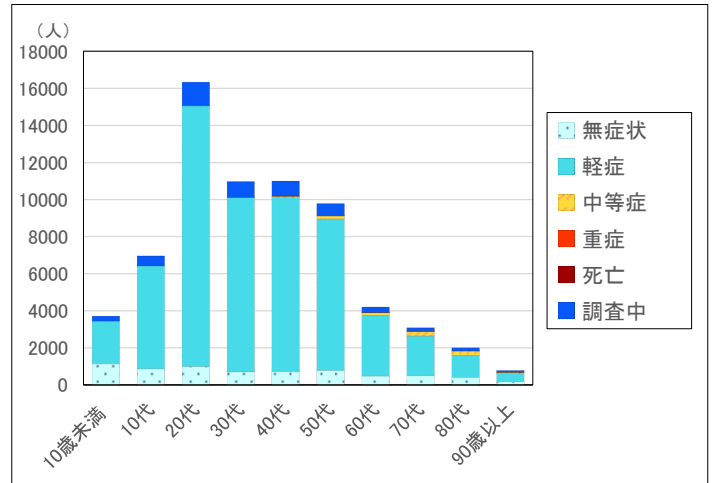
2 年齢別割合



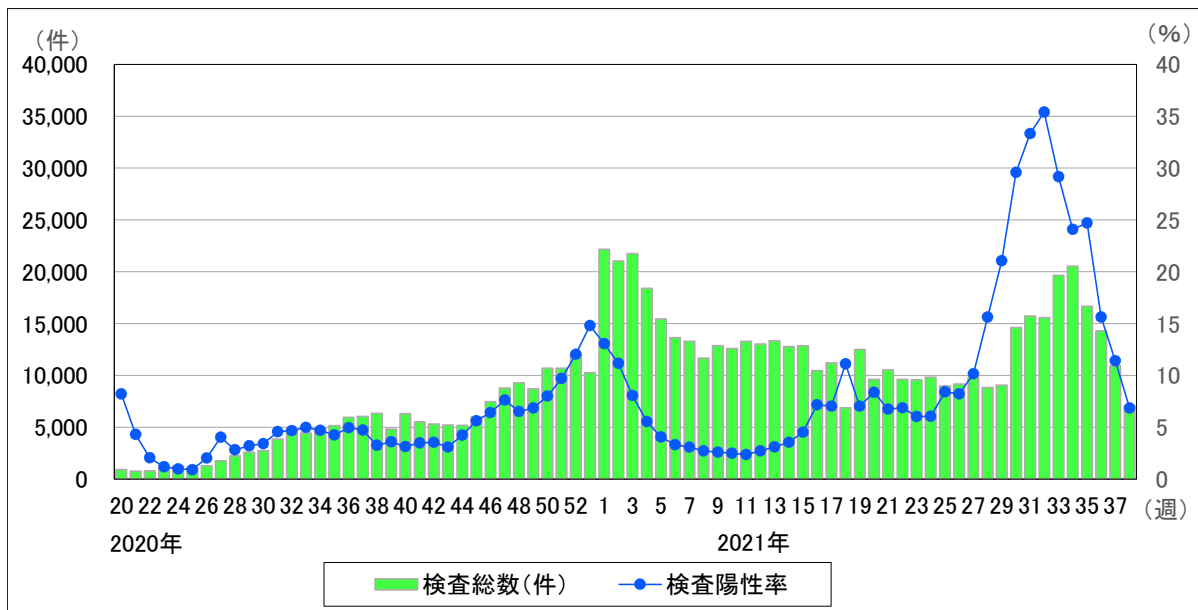
3 陽性確定時の症状の割合



4 陽性確定時の症状別人数(年代別)



5 市内における新型コロナウイルス検査実施状況

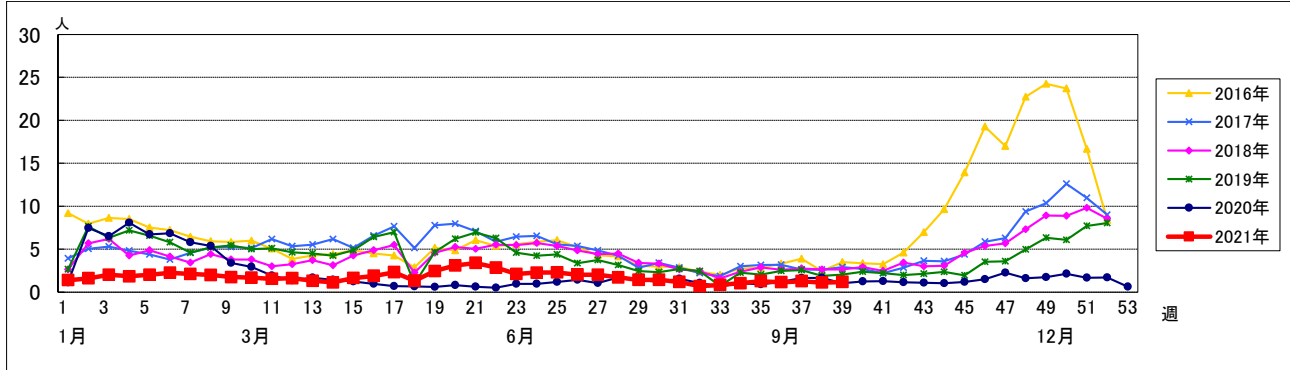


※ 検査総数:医療機関(民間検査機関等)、接触者外来、市衛生研究所の検査数の合計

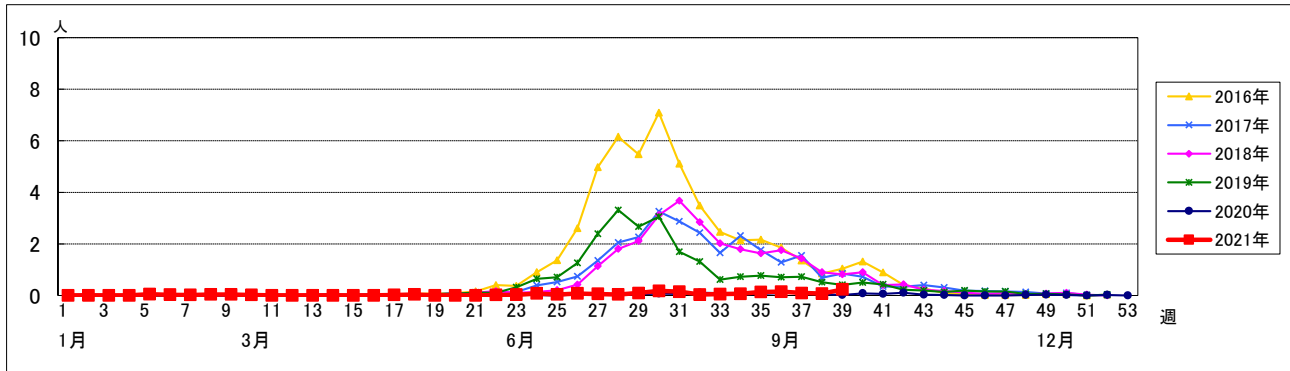
◇ 定点把握の対象

報告週対応表	
第34週	8月23日～8月29日
第35週	8月30日～9月5日
第36週	9月6日～9月12日
第37週	9月13日～9月19日
第38週	9月20日～9月26日
第39週	9月27日～10月3日

1 感染性胃腸炎: 例年より低めの報告数で推移しています。第39週は1.18でした。



2 ヘルパンギーナ: 例年より低めの報告数で推移しています。第39週は0.23でした。



3 性感染症(8月)

性器クラミジア感染症	男性:28件	女性:22件	性器ヘルペスウイルス感染症	男性:4件	女性:7件
尖圭コンジローマ	男性:5件	女性:0件	淋菌感染症	男性:15件	女性:2件

4 基幹定点週報

	第34週	第35週	第36週	第37週	第38週	第39週
細菌性髄膜炎	0.00	0.00	0.00	0.33	0.00	0.00
無菌性髄膜炎	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
マイコプラズマ肺炎	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
クラミジア肺炎(オウム病を除く)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
感染性胃腸炎(ロタウイルスに限る)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00

5 基幹定点月報(8月)

メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	10件	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	1件
薬剤耐性緑膿菌感染症	0件	-	-

【 感染症・疫学情報課 】

◇ 病原体定点からの情報

市内の病原体定点は、小児科定点:8か所、インフルエンザ(内科)定点:4か所、眼科定点:1か所、基幹(病院)定点:4か所の計17か所を設定しています。

検体採取は、小児科定点とインフルエンザ定点では定期的に行っており、小児科定点は8か所を2グループに分けて毎週1グループで実施しています。

眼科と基幹定点では、検体採取は対象疾患の患者から検体を採取できたときのみ行っています。

〈ウイルス検査〉

9月期(2021年第34週～第38週)に病原体定点から搬入された検体は、小児科定点30件、内科定点1件、眼科定点2件、定点外医療機関からは2件でした。

RSウイルスA遺伝子2件、RSウイルスB遺伝子2件、パラインフルエンザウイルス3型遺伝子6件及び新型コロナウイルス分離1株が検出されています。

表 感染症発生動向調査におけるウイルス検査結果(2021年第34週～第38週)

主な臨床症状 分離・検出ウイルス	上 気 道 炎	下 気 道 炎	感 冒	脳 症
RSウイルスA		- 1		- 1
RSウイルスB		- 1		- 1
パラインフルエンザ ウイルス3型	- 1	- 4		- 1
新型コロナウイルス			1 -	
合計	- 1	- 6	1 -	- 3

上段:ウイルス分離数

下段:遺伝子検出数

【 微生物検査研究課 ウイルス担当 】

〈細菌検査〉

9月期(2021年第34週～第38週)の「菌株同定」依頼は、基幹定点からカルバペネム耐性腸内細菌科細菌4件、サルモネラ属菌1件、黄色ブドウ球菌2件の検査依頼がありました。非定点からは、カルバペネム耐性腸内細菌科細菌2件、非結核性抗酸菌(NTM)1件の検査依頼がありました。

保健所からは、腸管出血性大腸菌17件、カルバペネム耐性腸内細菌科細菌7件、劇症型溶血性レンサ球菌1件、カンピロバクター1件、レジオネラ属菌1件の依頼がありました。

「分離同定」の検査依頼は保健所からレジオネラ4件の検査依頼がありました。「小児サーベイランス」の小児科定点からは消化器系病原菌の検査依頼が1件ありました。

表 感染症発生動向調査における病原体調査(2021年第34週～第38週)

菌株同定	項目	検体数	血清型等		
基幹定点	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌	4	<i>Enterobacter cloacae</i> complex (3)、 <i>Klebsiella pneumoniae</i> (1)		
	サルモネラ属菌	1	<i>Salmonella</i> Braenderup (1)		
医療機関	黄色ブドウ球菌	2	<i>Staphylococcus aureus</i> (2)		
非定点	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌	2	<i>Klebsiella aerogenes</i> (2)		
	非結核性抗酸菌(NTM)	1	<i>Mycobacterium abscessus</i> subsp. <i>abscessus</i> (1)		
保健所	腸管出血性大腸菌	17	O157 : H7 VT2 (8)、O157 : H7 VT1 VT2 (1)、O157 : H- VT1 VT2 (2)、O26 : H11 VT1 (1)、O103 VT1 (1)、O145 : H- VT1 (1)、O111 : H- VT1 VT2 (1)、OUT : H+ VT1 (1)、OUT : H+ VT2 (1)		
	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌	7	<i>Enterobacter cloacae</i> complex (2)、 <i>Klebsiella aerogenes</i> (2)、 <i>Citrobacter farmeri</i> (1)、 <i>Klebsiella oxytoca</i> (1)、グラム陰性桿菌(同定不明) (1)		
	劇症型溶血性レンサ球菌	1	A群溶血性レンサ球菌 TUT (1)		
	カンピロバクター	1	<i>Campylobacter jejuni</i> (1)		
	レジオネラ属菌	1	<i>Legionella pneumophila</i> SG1 (1)		
	分離同定	材料	項目	検体数	同定、血清型等
	保健所	喀痰	レジオネラ属菌	4	<i>Legionella pneumophila</i> SG1 (2)、不検出(2)
小児サーベイランス		項目	検体数	同定、血清型等	
小児科定点		消化器系病原菌	1	不検出 (1)	